

おはようございます。

新年度が始まって、1月が経過しました。4月下旬に行われた体育祭を通してクラスの絆も深まったことと思います。高校生活を充実させるため、前を向いて進んでいきましょう。

さて、5月8日から新型コロナウイルス感染症は5類に移行しました。そして、様々な場面での行動が個人の判断に委ねられることとなりました。「個人の判断」言葉にするのは簡単ですが、実際に自分で判断することは簡単なことではありません。人は人生の様々な場面で判断に迫られることとなります。そして、正にこれから、3年は自分の進路について、2年は選択科目、1年は系列と選択科目について、それぞれ判断に迫られます。それでは、どうすれば自信をもって判断することができるのか？また、その判断を実行に移せるのか？ポイントは体験、経験の積み重ねだと私は考えています。

10年ほど前、私は公立高校の通信制課程で教頭をしていました。通信制課程には下は15歳から上は70歳代の人が通っていました。そして、それぞれの人が様々な事情を抱えていました。

70歳代の人の中には、大学を卒業した人もいましたが、「知らないことや、分からないことを学習することは楽しいですよ」と話してくれました。また、皆さんのお母さんと同年代の人は「娘が昨年、高校へ入学したんですが、学校から配付されるプリントや資料の中で理解できない内容があつて、こんなんではいかんと感じて、私もこの年で高校生になろうと決心したんや」と照れながら話してくれました。さらに、高校へ通っていたけれど、事情があつて中退し、仕事をしている人は、「今の仕事を辞めて、違う仕事に就きたいんやけど、中卒では思うような仕事に就けんのや。だから、しっかり勉強して高校を卒業せないかんと身に染みて分かったんや」と真剣な表情で語ってくれ、京都の有名女子大学に通いながら、日曜日のスクーリング（授業）に合わせて、京都から香川に帰ってくる人、彼女は高卒認定試験を受けて大学に合格したけれど、高校は卒業していないので、保険の意味（大学を卒業できなければ中卒になってしまうため）で通信制で高卒の資格を得ようとしていました。事情があつて姉妹3人だけで生活していて、全員が通信制に通学している人など。本当に境遇は様々でした。それでも、共通していたこと、それはそれぞれの経験を通して、自分で判断して通信制に入学したこと。そして、社会で生きていくには、しっかりと学習して高校を卒業することが必要であると判断したことです。レポートを遅延なく提出すること。スクーリングを欠席しないこと。様々な条件をクリアすることは、結構難しいですが、彼らは諦めずに努力を積み重ね、卒業して行きました。自分で決めたことだから、頑張れたのだと思います。

判断の基となる経験・体験。皆さんには、それを高校時代に積み重ねていってもらいた

い。例えば、部活動もそのひとつです。同年代の仲間と同じ目標をもって活動する。しかし、考えや価値観は異なっている。そのような仲間と部活動を通して、いろいろと話をする。「あ、この子はこんな考え方をするんや。それもありやな。」など、物事の見方に影響を与えてくれる。このような経験は、対面でのコミュニケーションを通じてでなければ、中々できないものです。SNSからでは得ることができない大切な経験となります。今までしたことがなかったことでも、少しずつでも取り組んでみる。その積み重ねが、自信をもって判断すること、そして、それを実行に移す勇気にきっと繋がって行きます。

「やる気がなくなった」のではない。「やる気をなくす」という決断、判断を自分でしただけだ。「変わらない」のではない。「変わらない」という決断、判断を自分でしているだけだ。

以上で終わります。